落慶法要記念誌

本堂再建の軌跡

平成２８年４月１７日(日)

浄土宗

永昌院
向旭山　西念寺

住職　御　挨　拶

聖号十念

此度、檀信徒皆さまの念願でありました、本堂再建造営工事が無諸障礙に完了し、本日無事に関係各位の御同席を得て落慶法要を盛大に相勤められますこと、誠に大慶至極に存じます。

どこまでも天高く晴れ渡る中、頭を挙げて仰ぎみれば、威風堂々の大屋根は燦然と空に映え、堂内に入れば銘木台湾檜の薫りが満ち満ちて、千躰佛の向背を背負った本尊阿弥陀如来のみ光が私たちを迎えてくださいます。

この大事業が建設中大過なく無事に成満出来ましたのは、佛天の御加護と歴代諸上人をはじめ、檀信徒各家の御先祖がお浄土よりお導きとお守りくださっているお蔭と合掌し、感謝せずにはおられません。

堂宇を建立することは、その全過程が一大宗教行事と云われます。何かと先行きの見えない混沌とした時期に、物心両面でお支え頂きました檀信徒各位に厚くお礼申し上げますと共に、貴重なる御浄財を御寄進いただきました有縁の方々に衷心より感謝申し上げます。

また、この大事業の遂行にあたり、平成２４年に建設実行委員会を立上げていただき本日落慶法要に至る迄、東奔西走、粉骨砕身に御尽力いただきました建築実行委員様並びに関係各位に敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

さらには、この造営工事に直接携われたＮＥＯ建築設計室様、㈱キタセ様、北川製材所様、京仏具誠心堂様はじめ、多くの建設に携わっていただきました方々には、卓抜した技術と熱意誠意をもって献身的に工事を遂行いただきました事に深く感謝申し上げます。

最後に、当山開基以来法灯を守り続けてこられた歴代諸上人や壇信徒各家御先祖様のご恩に報い、明るく円満な御家庭を通じて子々孫々に念仏を相続頂く為、この落慶法要を契機に、元祖法然上人のお言葉「だゞ一向に念仏すべし」を深く心に留め、お念仏がこだまする根本道場としていつまでも御活用御参詣くださることを念願し、御礼の言葉といたします。

合　掌

平成２８年４月１７日

向旭山　西　念　寺

第３１世　忍　譽　昌　信

委員長 御　挨　拶

謹啓　春爛漫の今日壇信徒の皆々様におかれましては、ご壮健のこととお喜び申し上げます。

さて、平成２４年２月１２日田辺区公民館におきまして、本堂改築に向けての説明会と意向確認を行わせていただきましたところ、反対意見もなく大多数の方の賛同が得られたと判断し、建築実行委員会を立ち上げ今後の進め方など議論し、平成２４年１１月より委員会で寄進のお願いに参上致しました。

その時皆さんから励ましの言葉と寄進協力を多くの方からいただき、励みになったこと厚く御礼申し上げます。

その後、本堂解体の付帯工事として寺墓の移設と仮本堂建築及び、本堂新築の規模など検討し、消費税の８％移行による経費節減を考慮し、平成２５年９月末に建築業者決定となった次第です。

平成２６年１１月８日には本堂上棟式を、多数の参列のもと盛大に挙式していただきました。

本日ここに落慶法要の御披露目の儀式を壇信徒及び、関係者多数の参列の中盛大に行うことが出来ましたこと、これも壇信徒の皆様方と建築に係わっていただいた、（株）キタセ、ＮＥＯ設計、誠心堂の関係者の御尽力の賜と寺院関係者一同深く感謝いたしております。

今後とも向旭山西念寺の隆盛を願い更なるご支援をお願い申し上げますと共に、ご指導ご協力お願い申し上げます。

最後になりましたが、皆々様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

合　掌

平成２８年４月１７日

西念寺建築実行委員会

委員長　田　邊　昭　喜

バードビューによる西念寺の景観

ようやく本堂完成が近づいた２月末、普段見ることのできない上空から、飛ぶ鳥の目で見たような視線で建物全体の配置や本堂の優雅な屋根の曲線を見てみようと空撮をしました。

普段見慣れた景色とはまた違った様子に、見る角度によって全く違う表情を見せる建物の不思議さを発見しました。

圧巻は、高さ１４ｍに及ぶ屋根の頂上から見下ろした映像はまさにスキーのジャンプ台に立ったような迫力があります。

棟梁や大工さんは、「木造だからこそ出せる屋根の曲線の美しさ」と話されていました。

西念寺上空直上１５０ｍから見た田辺区のの様子です。
本堂をはじめ観音堂、寺墓収蔵庫、鐘楼等の配置がよく分かります。

西側を見ますと、遠く甘南備園や大住ヶ丘の方まで見渡せます。

北側は木津川を越えて城陽まで見渡せ、ＪＲ京田辺駅やアルプラザもすぐ近くに見えます。

南側には田辺小学校や中学校、市役所が見えています。

※国交省の正式許可を得て撮影しています

西念寺上空直上１５０ｍから見た田辺区のの様子です。
本堂をはじめ観音堂、寺墓収蔵庫、鐘楼等の配置がよく分かります。

西側を見ますと、遠く甘南備園や大住ヶ丘の方まで見渡せます。

北側は木津川を越えて城陽まで見渡せ、ＪＲ京田辺駅やアルプラザもすぐ近くに見えます。

南側には田辺小学校や中学校、市役所が見えています。

※国交省の正式許可を得て撮影しています

旧 本 堂 の 状 況

旧本堂は天保５年（1834年）の創建以来約２００年近くを迎え本堂等の腐朽化は著しく、屋根の葺き替えや本堂の傾斜による倒壊防止の支柱を施工するなど対処してきましたが、平成２０年の腐朽調査では地震や不同沈下などによる影響が深刻であることが判明しました。

阪神・淡路大震災と同規模の地震が起きた場合は倒壊等は避けられない状況であり、近い将来腐朽等に対する改修が必要なことから、耐震性の高い施設に出来るだけ早く建て替えることについて檀信徒各位の御理解を得て平成２４年１月に本事業が発足しました。

懐 か し い 旧 本 堂 の 全 景

バランスの取れた境内配置の様子に比べ、
永年の風雨の影響で腐朽が進んだ本堂
各部の様子

朗寿会館の解体と寺墓の移設

昭和４３年より活用された朗寿会館の老朽化に伴い、解体撤去して寺墓を移設しました。ユニバーサルデザインを徹底し、車イスのままでもお参りいただけるよう、段差は一切なく、十分な広さの通路を確保しています。

収蔵庫（仮本堂）の新築工事

平成２６年４月より旧本堂解体後仮本堂として使用する収蔵庫の新築工事が始まりました。将来、納骨堂として使用可能な構造となっており、非常に堅牢な造りとなっています。収蔵庫完成後、仮本堂として使用可能な状態にして本堂の本格的な解体作業に着手しました。

本堂新築工事の変遷

旧本堂の解体工事

天保５年に建立された本堂はこれまで２００年近くの風雨に耐え、檀信徒の御先祖をお祀りし、五重相伝をはじめ多くの諸行事の念仏道場として活用されてきました。また、みみづく保育園の前身である西念寺農繁期季節託児所の保育室として多くの方々に幼少期より親しんでいただきました。

解体に先立ち、御本尊をはじめ各佛像、佛具の運び出しが行われました。それぞれ工房で解体修理、新調が行われ平成２８年２月より据え付け作業が行われました。

地鎮式・起工式

平成２６年８月２２日、真夏の太陽が照りつける中、地鎮式・起工式を執り行いました。

当日は西念寺建築実行委員をはじめ、ＮＥＯ建築設計室、株式会社キタセ、京仏具誠心堂の関係者約２５名が参列しました。

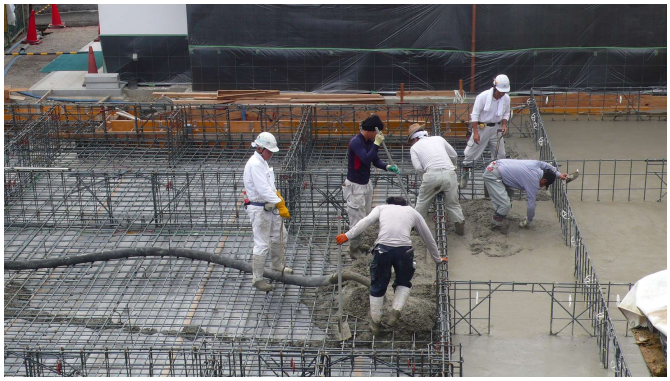
建築予定地の中心には円錐形に山盛りされた盛り砂があり、その四方に青竹を立てて注連縄で囲み、その前に祭壇を設け荘厳を整えました。会場の準備も整い、棟梁以下全員が着席して開式。導師の四方洒水、四方散華に始まり、表白の拝読に続き、参列者全員が焼香、その後工事中の無事を祈って導師の回願と進行し、工事の無事と安全を祈願して無事に地鎮式・起工式を終えることが出来ました。

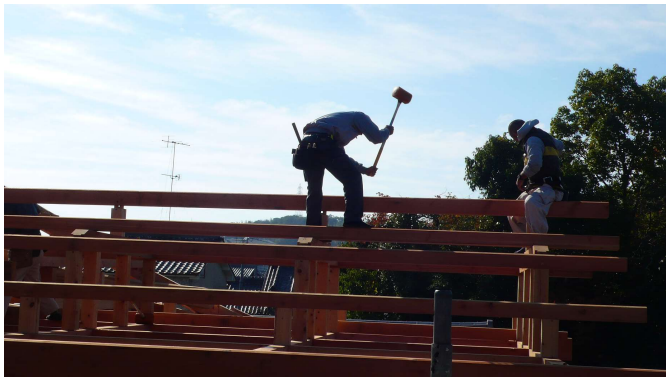
基礎工事・建て方工事

本堂の建築予定地は地盤が大変軟らかく、基礎工事の開始に先立って地盤改良が行われました。更に耐震強度を上げるため、地表から奥深くの固い地盤まで直径80センチのコンクリート杭が約90本立てられ、頑丈な鉄筋が組まれました。

最終の木枠が外され、完成した頑丈な基礎からは、この先永年に渡って本堂を支えていく力強さが感じられます。

この後いよいよ工場で加工されている木材が搬入され、建て方が始まりました。





上　棟　式

平成２６年１１月８日、爽やかな薫風が吹き抜ける中、上棟式を執り行いました。建築実行委員をはじめ多くの檀信徒や中村設計士、株式会社キタセ、京仏具誠心堂の関係者ら約１００名の方々に御参加いただき、盛大に挙行することが出来ました。

上棟式後の工事経過

上棟式後、まず建物全体に大がかりな素屋根の取り付け工事が行われました。天候に左右されることなく工事が進行するだけでなく、木材の日焼け変色等を防ぐことができます。

向拝部分の巨大な材木がクレーンを使って運び込まれ、海老虹梁と呼ばれる部分には、樹齢二千年とも言われる台湾檜が使われています。このような材木は、どこを探しても手に入らないらしく、(株)キタセ様の豊富な材木によって実現した貴重な部分となっています。是非長く後世に伝えていきたいと思います。

屋根工事も順調に進み、完成した向拝部分には漆喰が施され、長い年月に耐えるよう細心の注意を払って何重にも塗り重ねられます。

現場説明会の開催

現場監督、設計士、大工棟梁様等により、現場説明会を行いました。多くの檀信徒の御参加を得て無事に終了。多くの木材が絡み合う複雑な構造や最新の耐震設計について説明を受けた後、参加者の質問にも答えていただき、有意義な機会になりました。

屋根瓦葺き工事

最上部の棟熨斗（むねのし）は１４段の瓦が積み重ねられ、迫力ある屋根を演出しています。また、屋根瓦は下から見上げても美しい曲線を描いていますが、上から見下ろすと驚くほどの急カーブを描いています。

本堂内外の工事経過

お盆が終わった頃から浜縁の各部材が運び込まれ、いよいよ浜縁の取り付け工事が始まりました。

次に頑丈な土台が組み立てられ、その上に厚い桧の板が次々に取り付けられていきます。一枚一枚凸部分と凹部分の加工が施され、非常に繊細な作業がされています。

最後に手摺り部分の高簡（こうらん）が取り付けられました。なんとこの材料は旧本堂の内陣の丸柱が加工されたもので、しっかりとこれまでの歴史が引き継がれています。いずれも設計図面を凌ぐ堂々とした素晴らしい仕上がりです。

浜縁の工事と平行して建具の取り付けが始まりました。一枚一枚、入念に加工され所定の場所に取り付けられます。

特に、筬欄間（おさらんま）と呼ばれる部分は非常に細かな加工が施されています。

佛具の修復・新調

誠心堂の工房では堂内荘厳の修復作業が進められました。木地の破損部分を20工程以上にも及ぶ京都の伝統技法で修復した後、漆塗り工程に移り、漆を何回も塗り重ねて最後に各部を組み立て、新調仕上げが施されていきます。

遷　座　式

３月２０日、多くの檀信徒を迎えて春彼岸会の中日法要と併せて遷座式を行いました。

誠心堂の工房で立派に新調復元された各佛具と共に、見違えるように立派に修復されたお姿に、当日御参詣いただいた方々から「本当に立派になった」というお言葉を多数いただきました。

檀信徒のお称えするお念仏がこだます中、御本尊はじめ千躰佛や観音菩薩、勢至菩薩、善導大師像、法然上人像の開眼入魂供養を執り行いました。

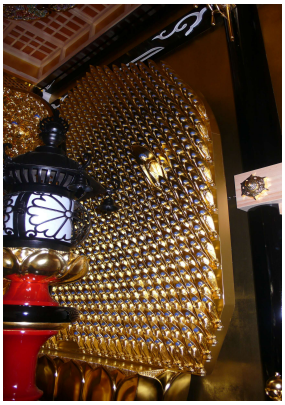
遷座式終了後、今回の新調修復作業を行っていただきました京仏具誠心堂様の塗師により、千躰佛や荘厳須弥壇の修復工程について詳しくお話いただきました。気の遠くなるような複雑な工程に、皆さん大変驚いておられました。

完成なった本堂の様子

幅15m、奥行き23mに及ぶ本堂外観

本堂正面内部の様子

弥陀三尊と
後方の千躰佛



法然上人像

←左脇壇

右脇壇→

善導大師像

殆どの部材が新調され、蘇った
須弥壇を中心とした佛具一式

向拝部分の海老虹梁（えびこうりよう）には、樹齢二千年とも言われる台湾檜が使われています。このような材木は、北川製材所様以外では入手できない貴重なもので、当山の本堂を象徴する重要な部分となっています

また、すべての人にとって親しみやすく使いやすい本堂を目指したユニバーサルデザインを徹底しており、象香炉等も段差の出ない工夫をしています。

皆様にお詣りいただいた折、ゆったりとお過ごしいただけるよう本堂西側に和室を設けています。掛け軸は斉藤春宵先生作の宗歌「月かげ」です。

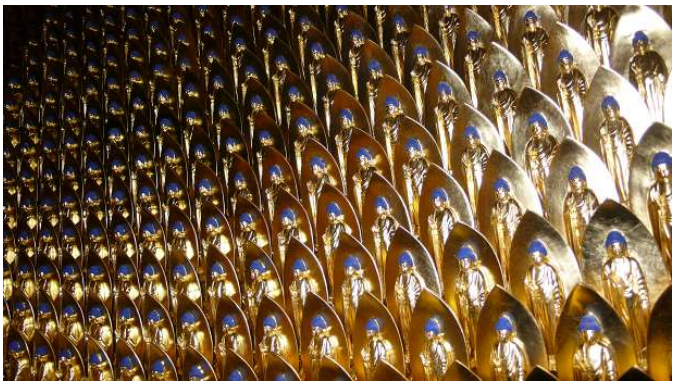
修復された主な仏像

当山の象徴的存在であります千躰佛の修復には多くの手間と時間を費やし、永年の悲願であった当山の念仏信仰の拠となる配置ができました。

これまでは両脇壇に五百躰づつ祀られていましたが、今回は御本尊を取り囲むように配置され、堂内に足を踏み入れますと、御本尊と共に念仏信仰の神髄に触れるような圧倒的な迫力で私たちに迫ってきます。

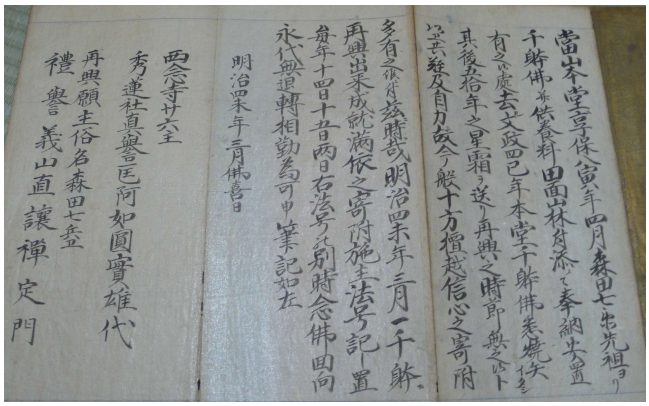
修 復

新 調

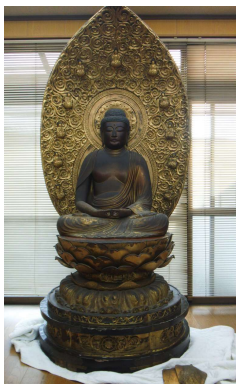


お顔や光背が痛んでいるものは修復し、新たに10躰が新調されました。

享保年間に寄贈され、その後焼失するものの、明治になって再興されたことが記録に残されています。

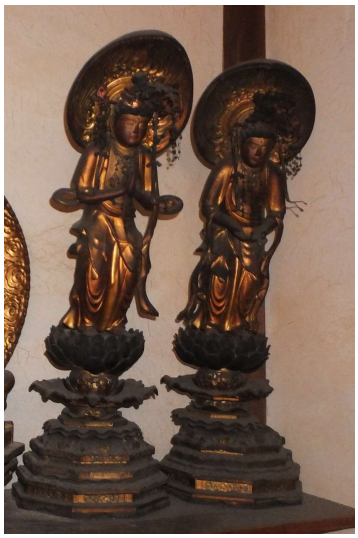


御本尊の阿弥陀如来様も仏師の工房で完全な新調修復作業が行われ、見違えるように立派になり、見事に蘇りました。



仏師の工房で新調修復

本堂の正面真中に祀られている佛様が阿弥陀如来、向って右が観音菩薩、左が勢至菩薩です。菩薩とは、佛になるために修行する人のことを言いましたが、観音菩薩や勢至菩薩の場合は阿弥陀佛の分身として、その働きを助ける者という考えです。阿弥陀さまが、慈悲として働かれる時には観音菩薩を遣わし、智慧として働かれる時は勢至菩薩を遣わされます。



今回、弥陀三尊として観音菩薩や勢至菩薩も見事に蘇りました。

本堂新築・第Ⅰ期工事の経過概要

平成２２年

４月19日　評議員会　老朽化対策委員会の設立及び寺墓の整理検討
11月２日　総代会　本堂等の状況について調査報告、資料検討

平成２３年

２月26日　総代会　本堂等の状況について状況報告を事業者から聴取
４月11日　評議員会　建築実行委員会を立ち上げ今後の基本計画の策定
10月８日～20日　改築説明会　檀信徒に対する説明会を４回開催

平成２４年

２月12日　改築説明会　本堂等改築に向けて区公民館で全体説明会の開催
６月９日　西念寺建築実行委員会の設立総会を開催
６月10日　西念寺新改築等に対する趣意書を配布、事業推進の協力を要請
７月31日　先行して新改築された寺院の見学会
11月～12月　寄進に係る資料を檀信徒各戸に配布し寄進のお願いを実施

平成２５年

２月25日　設計管理業務をNEO建築設計室に委託契約
10月10日　入札の結果、工事発注業者を(株)キタセに決定
11月１日　朗寿会館解体開始

平成２６年

２月16日　寺墓移設完了
５月25日　本堂解体工事開始
６月30日　収蔵庫完成、仮本堂として使用開始
８月22日　地鎮式を厳修
８月25日　本堂建築工事開始
11月８日　上棟式を厳修　関係者並びに壇信徒約100名以上が参列

平成２７年

２月28日　現場説明会を実施、以後工事進行状況の説明会を随時開催
11月25日　完了検査合格

平成２８年

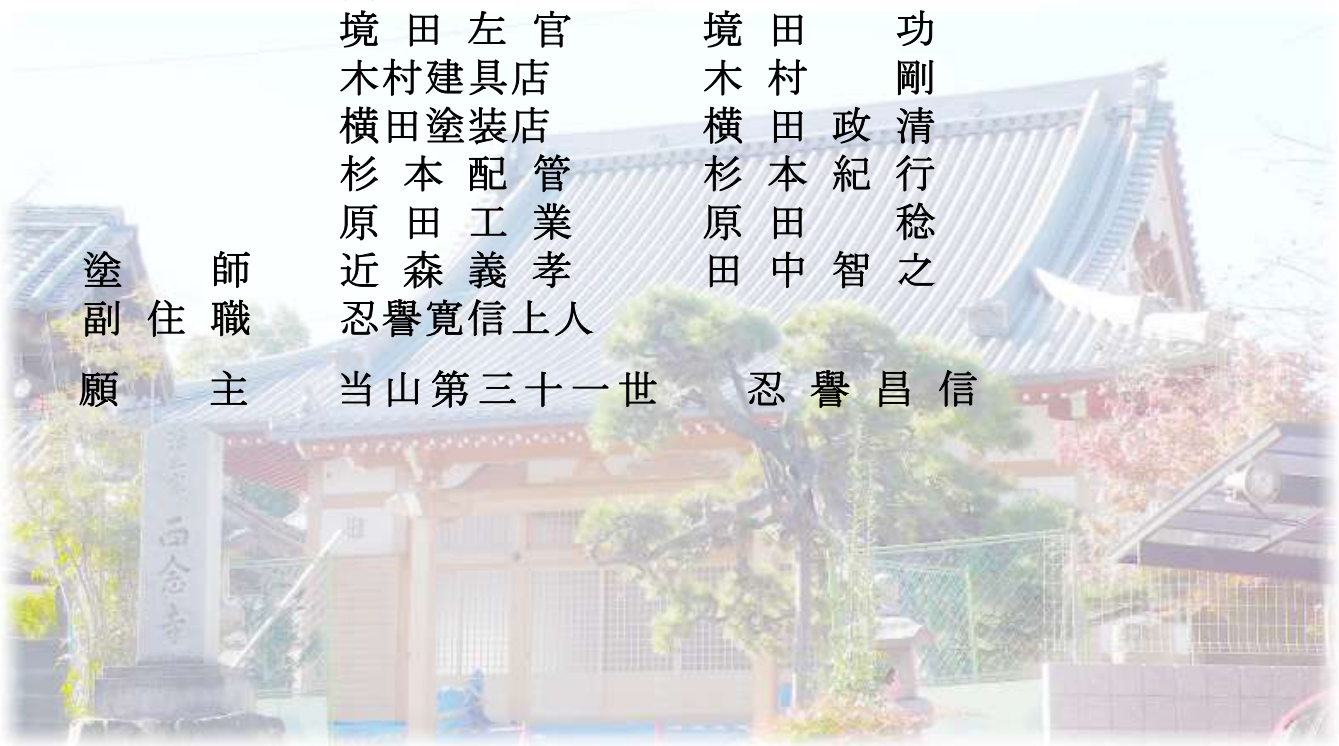
１月31日　本堂工事終了
２月25日　堂内荘厳佛具搬入、本尊等の仏像搬入終了
３月20日　春彼岸中日法要に続いて遷座式を執り行う
４月17日　本堂落慶法要厳修

※建築実行委員会等の会議は省略、主たる項目のみを抜粋しています

建築委員・工事関係者一覧

西念寺建築実行委員会

委員長	田邊昭喜		
委員	竹村春彦	安岡賢治	奥田道男
	中川陽之助	木口晃久	
	小林喜春	木口忠臣	西川和弘
	吉山　保	北纓　武	西川　實
	有山幹也	北川政弘	安岡俊爾
	北川康孝	木口明義	木口　弘
	北尾芳一	木口　肇	上村　勉
	竹村清彦	香村侃彦	
設計	NEO建築設計室 所長	中村則正	
施工	㈱キタセ 社長	北川欽一	
	北川製材所 代表	北川耕司	
荘厳	京仏具誠心堂社長	清本啓子	
管理	柴田忠信		
棟梁	楠　孝臣		
工匠	山崎芳実	井上隆裕	奥村　学
	木戸脇 俊樹	松本英盛	北川武弘
協力業者	江守石材店	江守幸市郎	
	橋本ガラス建材	橋本　武	
	Ｏ・Ｉ・Ｓ	奥村良太	
	天野クレーン工事	天野　実	
	㈱井辻瓦	井辻龍二	
	境田左官	境田　功	
	木村建具店	木村　剛	
	横田塗装店	横田政清	
	杉本配管	杉本紀行	
	原田工業	原田　稔	
塗師	近森義孝	田中智之	
副住職	忍譽寛信上人		
願主	当山第三十一世	忍譽昌信	



浄　土　宗

向旭山
永昌院　**西　念　寺**

〒610－0331
京都府京田辺市田辺北里２９番地
☎0774－62－1027
0774－63－2912

平成２８年４月１７日
本堂落慶式記念に忍譽昌信作成